

2021年12月27日

各位

会社名 日本コークス工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 鹿毛和哉  
(コード: 3315 東証第1部)  
問合せ先 人事・総務部長 山下伸一  
(03-5560-1311)

### コークス出荷設備損壊について

当社北九州事業所において、輸出向コークスを船積中、出荷設備（シップローダー3号機）が損壊する事故が発生しました。

当事故につきましては、相応の損害額を見込んでおりましたが、備船市況高騰の中、滞船料が当初の想定を上回る見込みとなりましたので、下記の通りお知らせいたします。

当社と致しましては、今後も引き続き安定操業に努めてまいります。

#### 記

1. 発生日時

2021年9月19日（日） 午前8時40分頃

2. 発生場所

福岡県北九州市若松区響町1丁目3番地  
日本コークス工業株式会社北九州事業所

3. 発生経緯

コークス出荷設備であるシップローダーの運転中、ブームの俯仰を制御するブレーキが不調となり損壊しました。

4. 被害状況

コークス出荷設備（シップローダー3号機）損壊、人的被害はございません。

5. 損害の見込額

損害の内容	損害見込額	費目
滞船料、船積費用等	約14億円	2021年度営業損失

6. 今後の対策について

コークス出荷設備については、応急的な処置として仮設の船積設備を設置することとし、来年度初の稼働を予定しているため滞船状態は逐次解消します。また、来年度中には新たな出荷設備が稼働できる見込です。

7. 業績に与える影響

本年11月5日公表の業績予想には相応の損害額を織り込んでおり、現時点で予想の修正はございません。引き続き、船舶運航スケジュール調整や、応急処置である仮設船積設備の早期完工等により損害額の圧縮に努めます。

以上